

読書活動部会

【研究主題】

「本好きな子供を育てるための読書指導」



研究主題

「本好きな子供を育てるための読書活動」

1 はじめに

登米市では、「基礎学力の向上」を教育課題とし、その手段として「学校図書館の充実」を取り上げ、「望ましい読書習慣の定着に向けた意識啓発」を行い「読解力」の向上へつなげていくことを提案している。

「平成28年度宮城県子ども読書活動に関するアンケート調査結果」によると、1ヶ月に全く本を読まない率（不読率）は、小学校7.6%、中学校14.0%、高校41.3%、大人54.4%であった。特に小学生は全国平均（4.0%）を3.6ポイント上回り、不読傾向の子供が多く見られることが分かった。読まなかった理由として「読みたいと思わなかった」という理由が半数以上を占めている。また、登米市教育委員会生涯学習課で調べた『学校図書館アンケート』の結果を見ると、学校図書館の平均貸出冊数は、小学校が28冊であるが、中学校では平均1冊と、大幅に少なくなっている。

近年の急激な社会状況の変化により新しいメディアが発達し、子供ばかりでなく大人にも読書離れの傾向は著しい。読書指導の目的は、「生涯にわたる読書習慣を持続させること」である。それは子供の読書を支える図書館や読書指導担当者の肩に掛かっていると言えよう。

そこで本部会では、幼稚園・小学校・中学校・市立図書館の職員が一堂に会し、「本好きな子供を育てるための読書指導」を研究主題として掲げ、子供たちが本に興味をもち、読書の楽しさに気づかせ、習慣化を図るために様々な取り組みを行い、主題に迫っていきたいと考えた。

学校図書館は、「読書活動の拠点」または「学びの場」として、学校教育の中核となるものである。幼稚園においても「読書の入門期」として、読み聞かせや絵本の貸し出し等、本に親しませる活動を日々行っており、その役割は大きい。さらに、「心豊かな生活に向けた生涯学習の充実」という社会教育としての観点から、市立図書館が果たす役割も重要である。それぞれの教育現場と公共施設の職員が一体となって読書活動に取り組んでいくことは、子供たちに望ましい読書環境づくりを行い、読書への啓発を一層促進できるものと考ええる。

2 研究のねらい

幼稚園・小学校・中学校・市立図書館のそれぞれの現状や、幼児・児童・生徒の読書活動における課題を洗い出し、その解決に向けた取り組みを行うことで、子供たちが本に興味をもち、読書の楽しさに気づき、読書の習慣化を図れるようにする。さらに、子供たちに読ませたいおすすめの本を100冊選書し、よい本に親しむことができるようにする。

3 研究の方法

まず、図書館が担う役割や、読書を推進するための様々な方法、読書活動と読解力のかかわり等について理論研修を行い、共通理解していく。

幼稚園部，小学校部，中学校部，市立図書館部と，部会毎の実態や現状に応じた課題を検証し，課題の解決に向けた読書活動への取り組みを行い，実践したことをまとめる。

さらに，子供たちに読ませたい本を選び，「登米っ子おすすめの本 100 冊」としてまとめ，各教育現場に発信していく。

4 研究の内容

1)	読書活動に関する基礎的理論の理解
(1)	図書館が担う役割・機能
(2)	読書能力の発達段階
(3)	読書を推進するための様々な方法
(4)	読書興味を高める技法
(5)	読書活動と読解力のかかわり
2)	実践研究
(1)	幼稚園部会
(2)	小学校部会
(3)	中学校部会
(4)	市立図書館部会
3)	子供たちへの推薦本の選定
	「登米っ子おすすめの本 100 冊」選書

5 研究計画

研究部会	期 日	内 容
第 1 回	平成 2 9 年 5 月 1 0 日 (水)	研究員全体会・研修会 研究部会
第 2 回	平成 2 9 年 6 月 9 日 (金)	これまでの実践から 研究主題の設定・研究の方向付け
第 3 回	平成 2 9 年 7 月 2 1 日 (金)	研究のねらい・方法について確認 読書活動に関する基礎的理論の理解 部会毎研究計画
第 4 回	平成 2 9 年 1 0 月 1 3 日 (金)	部会毎・実践内容の中間検討
第 5 回	平成 2 9 年 1 2 月 5 日 (火)	研究のまとめと発表会の検討
	平成 3 0 年 1 月 1 9 日 (金)	原稿提出期限
第 6 回	平成 3 0 年 2 月 6 日 (火)	研究発表会リハーサル
	平成 3 0 年 2 月 2 1 日 (水)	研究発表会

6 研究の概要

1) 読書活動に関する基礎的理論の理解

(1) 図書館が担う役割・機能

学校図書館は、子供たちが読書習慣を身に付け、生涯にわたって学び続けるために必要な力や人間性を育てるための施設であり、学校経営の中核となるものである。以下の3つの役割を担っている。

① 読書センター（読書活動の拠点）

読書好きの子供を増やし、豊かな学力、豊かな人間性を育む。

② 学習センター（授業・学習支援）

学校図書館メディアを活用して探求的な学習活動を行い、思考力、判断力、表現力を育む。

③ 情報センター（情報活用能力の育成）

多種多様な学校メディアを提供し、子供の情報活用能力を育む。

さらに、言語活動、読書活動等の充実を通じ、「教員サポート機能」を充実させる役割や、子供たちが生き生きとした学校生活を送るため、悩みを抱える子供のための「心の居場所」になる役割も担う。

図書館には、子供のすぐ手に届くところに、自由に選ぶ事のできる多種多様な読書材を用意しておくことが重要になる。また、子供たちを図書館に引き寄せるためには、図書館自体に親しみやすい雰囲気があり、ちょっとのぞいてみようかなという気にさせる工夫が必要である。

「適書を適者に適時に」これが読書指導の基本である。個性や発達段階、適書・不適書の判断に基づいて、図書担当者が子供と本の出会いの機会を作り上げて行かなければならない。

(2) 読書能力の発達段階

子供の個性や発達段階に合わせ、本との出会いの機会を作り上げていくために、読書能力の発達段階に合わせた適切な指導を心がけていくことが求められる。

読書指導は子供たちの興味・関心にあわせ、主体的に読書活動を行うことが出来るように配慮しなければならない。本の苦手な子供は、マンガ入りの軽読書にしか手を出さないかもしれないが、次第に興味を持たせ、レベルアップのためのオリエンテーション（方向付け）やガイダンスをしてやることが読書指導の基本である。

近年、子供ばかりでなく大人にも読書離れの傾向は著しく、軽読書の段階で止まっている例が多く見られる。生涯にわたって読書習慣を持続させることができるよう、働きかける必要がある。

読書能力の発達段階と、読書興味の発達段階

①前読書期（４～５歳） 子守り話期 昔話期

話し言葉で通信をしている段階。文字の存在を意識し、絵本に興味を示す。

②読書入門期 昔話期

２－１）読みのレディネス促進期（４～５歳）

読み聞かせをせがむ時期。「この字は何という字？」と親に尋ね、字を覚えていく。

２－２）読書開始期（５～６歳）

かな文字が、全部読めるようになる時期。１字ずつの拾い読みのため、時間がかかる。今まで読んでもらった本を自分で読もうとする。

③初歩読書期 寓話期

３－１）独立読書開始期（小学校１年生１学期）

意味が簡単で、未知の語があまり出てこない文章を、一人で読み始める。読むことは楽しい事を実感する。

３－２）読書習慣形成期（小学校１年生２～３学期）

本を読む習慣が付き始める時期。語彙の量が増え、新しい言葉が出てきても、推測しながら文意をつかむことができる。文字で示された場面や情景をイメージすることができるようになってくる。

３－３）基礎読書力成熟期（小学校２～３年生） 童話期

初歩の読書技術が身につく時期。本を終わりまで読み通すことができるようになる。自分の考えと比較しながら読むといった、創造的な読み方が出来るようになる。

④多読期 物語期

４－１）無差別多読期（小学校４～５年生）

読書技術が発達して多読となり、目的に応じた読書ができるようになる時期。自発的に何でも読むようになるが、本の選択はまだ不十分である。理解と記憶がよくなり、読みの速度も大幅にアップする。参考資料や新聞をうまく利用できるようになる。

４－２）選択的多読期（小学校５年生～中学校１年生） 伝記期

語彙の量が飛躍的に増加する。自分の必要性に合った読書材を適切に選択することができるようになる。内容を評価することができる。この段階で発達が止まる者、以後、偏った面だけが発達する者が出てくるおそれがある。

⑤共感的読書期（中学校２年生～高校１年生） 文学期

読書による共感を求めて、それに適する読書材を選択する。多読の傾向は減少し、共感したり感動したりする本に出会うと何度も読むようになる。

⑥個性的読書期（高校２年生～） 思索期

読書の目的、資料の種類に応じて、適切な読書技術によって読むことができる。成熟した読書人としての水準に達する時期である。

出典：「読書と豊かな人間性」放送大学

(3) 読書を推進するための様々な方法

〈読書活動例〉

①読書環境の整備・充実

図書館の環境整備，学校全体の読書環境の整備・充実。

②子供の読書興味を高める技法

読み聞かせ，ブックトーク等の方法で子供と本をつなぐ（後述）

③読書感想文・読書感想画

読後の指導として読書感想文を書かせたり，読書感想画を描かせたりする。

④推薦図書リストの作成

推薦図書リストを定めて，子供に読書目標をもたせる。

⑤読書行事

図書館オリエンテーション，読書集会，読書祭り等を行い，学校全体の読書意識を高める。

⑥家庭・地域ぐるみの読書

家庭・地域全体で読書の意義を認め，地域ぐるみで読書活動が盛んになるように働きかける。

〈情報活用能力の育成のための活動例〉

①学習活動に必要な資料の整備充実

授業内容や授業計画を把握して，役立つ資料を揃える。

②図書館利用の手引きの作成

図書館利用促進のために，「利用の手引き」を作成する。

③図書館オリエンテーションの実施

年度初めに，図書館の利用のルール，本の借り方・返し方等を説明する。

④情報・資料を探す手立ての工夫・充実

目録や書架見出しによって情報を探しやすくしたり，探し方の手順を図示したりする。

(4) 読書興味を高める技法

①読み聞かせ・朗読

読み聞かせは、本を読んで聞かせたり、絵本の絵を見せながら読んで聞かせたりすることである。本のおもしろさを知り、読書に親しむことを目標としている。朗読も自分で黙読するのとは違った本の世界を知ることができ、高学年や中学生にも読書への意欲につなげることができる。

②ストーリーテリング

ストーリーテリングは語り手が物語を覚えて聞き手に語ることである。民話などの語りは古くから続けられてきた。語り手によって、または聞き手に応じて違った味わいをもった語りになる。

③ブックトーク

特定のテーマに関する一連の本を、エピソードや登場人物、著作者、あらすじも含めて解説を加えながら1つの流れにできるように順序よく紹介し、手に取ってみたい、もっとお話を知りたいという読書意欲につなげることをねらいとしている。ある1冊の本を選んで行うこともある。紹介した本は身近なところに置き、実際に読むことができるようにしておく。

④並行読書

並行読書とは、単元のねらいをより実現するために、教科書の教材と関連させて、本や文章を読むことを位置づけることである。教科書以外の作品に触れる機会が得られることで表現の良さや著者の思いを知り、読書への関心が高まったり、読み比べることでより考えを深めたり広げたりすることができる。

⑤読書会

読書会には、読書討論会、読書発表会、輪読会などがある。全員で1冊の本を読み、感じ取ったことや考えたことなどを話し合う。気に入った文や好きな場面、気になった場面などを紹介し合うことも読書会を盛り上げる。読書会は本を通して一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができ、本について友達と語り合う楽しみを知るきっかけになる。

⑥ビブリオバトル

おもしろいと思った本を持ち寄って集まり順番にその本を紹介し、発表後参加者でその本に関するディスカッションを行い、最後に「どの本を読みたくなったか」を投票して「チャンプ本」を決める活動である。

⑦アニメシオン

アニメシオンとは読書ゲームのことである。本の内容をもとにしたコミュニケーションが必要となる。いろいろな技法は「作戦」と呼ばれ、全体をまとめる先生のような役目の人を「アニマドール」と呼ぶ。

⑧パネルシアター

パネル布を貼った舞台に絵や文字を貼ったり外したりして展開するお話、歌遊び、ゲームのことである。動きがあって聞き手の興味を引き、集中力が持続する。

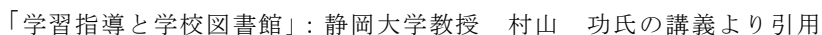
⑨読書郵便

おすすめの本を葉書に書いて設置した「ポスト」に入れる。掲示した後、宛先に

⑩朝読書

- ・みんなでやる（全校一斉が望ましい 先生も一緒に読む）
- ・毎日やる（たとえ１０分でも毎日行う）
- ・好きな本でよい（但し、マンガや雑誌、週刊誌はだめ）
- ・ただ読むだけ（感想文や記録のようなものは一切求めない）

「読書力」から「読解力」へ



2) 実践研究

(1) 幼稚園部会

① 読書活動における幼児の実態・課題

生活調査票，教育相談，家庭における生活のアンケート調査から，園児は家庭では室内で遊ぶ傾向がみられる。テレビやゲーム，DVD やスマートフォンなどのタブレット端末が身近なものになったことで，絵本に対する幼児の興味，関心が薄れていると考えられる。保護者はそれらのコンピュータ機器が幼児にとって良くないものであることを知りつつ，保護者自身が使用したり，子供が静かになるという理由から与えたりしているという声も聞かれた。そのため，必然的に絵本に触れる機会が減少し，親が子供に絵本を読み聞かせることも少なくなっている。

園における幼児の様子を見ると絵本コーナーを設置し，本を手にする機会が増えても，一人で文字を読むことができない幼児もいるため，図鑑や迷路，間違い探しなど，絵を見て楽しめる本を選ぶ傾向がある。そのため，絵本にまったく興味を示さなかったり，誰もが知っている昔話を知らなかったりする幼児も見られる。

幼稚園部会ではこれらの幼児の実態から，保護者にも絵本の良さを知ってもらい，幼児がストーリー性のある絵本に興味や親しみをもつことができるよう，次のような活動に取り組んだ。

② 読書に親しませるための実践・活動内容

A 絵本の貸し出し

幼稚園にある絵本を毎週末，長期休業前に幼児が好きな絵本を選び，貸し出す活動を行っている。貸し出す際，幼児や保護者の約束として「持ち帰った絵本を保護者に読んでもらう」「一回だけの読み聞かせにならないようにする」「文字が書いてあり，ストーリー性があるものを選択する」などとしている。



B 月刊誌の活用

毎月，月刊誌を購入し，配布している。幼児が絵本離れしていることや，昔話を知らないという実態から，物語絵本や日本・世界の昔話絵本を購入して親しめるようにしている。その絵本を活用し，友達と一緒に物語絵本を読み聞かせてもらう喜びを感じさせるためである。また，家庭に持ち帰ることで，保護者にも読んでもらうことができ，一緒に絵本に親しむきっかけづくりになっている。



C 活動の導入・振り返り

活動前の導入に絵本を取り入れ、活動に興味を示すきっかけづくりに活用している。また、活動の振り返りの場面でも絵本を紹介し、興味をもてるようにしている。



D 読み聞かせの実施

季節感を感じられるような絵本や、行事にかかわる絵本などを教師が選んで読んだり、日直当番の幼児が読んでほしい絵本を選んだりして毎日、帰りの会に読み聞かせを実施している。読み聞かせを日課にすることで、幼児が読み聞かせの時間を楽しみにしたり、当番の幼児が次に読んでもらいたい絵本を考えたりするようになっていく。



E 絵本コーナーの設置

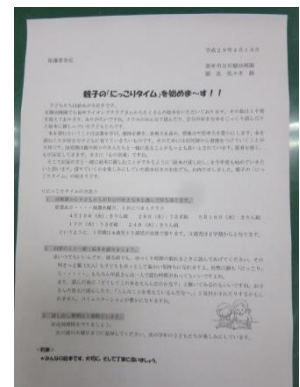
空き教室に絵本コーナーを設置し、季節ごと、物語ごとなどに配置したり、廊下に季節の絵本を表紙が見えるように置いたりして、幼児が意図的に絵本を目にするように環境を工夫している。



F 家庭との連携

公民館など地域の施設で管理している絵本を借りて読んでいる。地域に絵本を借りることができる場があることを保護者にも知ってもらい、地域とのつながりを深め、プライベートでも利用していただけるようにしている。

保育参観日など、保護者にも一緒に読み聞かせができる機会に絵本を紹介し、絵本に興味をもてるように工夫している。



③ 成果

〈幼児〉

- ・絵本に触れる機会が増え、様々な絵本に興味、関心が高まっている。
- ・好きな絵本を見つけることができ、返却の際に「帰りの会に読んで。」「おもしろかったよ!」とリクエストしたり、感想を話したりする幼児が増えて



きた。

- ・同じシリーズを借りた幼児と、絵本の内容を伝え合ったり、次にはその絵本を借りたいという期待が持てるようになったりした。
- ・家族全員に読んでもらったと話し、1回だけの読み聞かせが減ってきている。
- ・幼稚園にある多数の絵本を活用できている。
- ・返却する際は元の位置に戻すという指導の中で、表紙・裏表紙に続いて、背表紙に関心をもてるようになった。
- ・丁寧に触ったり、大切に借りていくようになったり、絵本の扱い方がわかってきた。

〈保護者〉

- ・子供から絵本を読んでもほしいとせがまれるようになった。
- ・絵本の貸し出しをきっかけに兄弟で共通の絵本を通して会話をするようになった。
- ・本屋さんに興味を示さなかった子供が、本屋さんに立ち寄り、園で読んでもらった本を教えてくれたり、気に入った本を欲しがったりする姿が見られるようになった。
- ・小さいころに読んでもらった絵本を本屋さんで見つけ嬉しくなり、子供に読んであげたり、病院などの待ち時間、絵本棚に目が向くようになったりした。
- ・子供がどんな絵本を借りてくるか楽しみにしている。

④ 課題（今後に向けて）

- ・幼稚園によっては、園児数に比べ絵本の数が圧倒的に少ない。教師が個人で購入していることもあるので、今後、計画的に絵本を増やしていく必要がある。
- ・絵本の部屋はあるが保育室に本棚がないために、黒板に絵本を立てかけて紹介したり、ロッカーの片隅に絵本を置いたり、紹介したりして身近に触れられるようにしている。本棚の設置、幼児が選びやすいように整理するなど、保育室の環境を充実させ、幼児がたくさんの絵本に触れられるような環境を整えていく必要がある。
- ・期間や冊数など貸し出し利用の見直すことが大切。
- ・保護者の中には図書館がどこにあるかわからない、公民館に絵本があることがわからないという人もいる。図書館や公民館の貸し出しを利用し、有効活用してもらえる様に情報を発信していきたい。

（２）小学校部会

① 読書活動における児童の実態、図書館の現状・課題

登米市教育委員会教育部生涯学習課で調べた『学校図書館アンケート』『登米市小学校図書館蔵書の現状』から、平成24年度末と平成28年度末の貸出冊数を比較すると、6割以上の小学校で貸出冊数が減少している。少子化による児童の減少も原因として考えられるが、運営上の悩みの記述に「借りる児童に偏りが見られる。」「先生方にもっと図書館に借りに来て欲しい。」「貸出の時間が十分に取れ

ない。」「図書が古い。」「図書館運営の時間が確保できない」とあり、様々な原因が読み取れる。

実際に、担当する小学校の図書館の貸出の様子を見ても、借りに来る児童には偏りがあり、学年が上がるにつれ、不読傾向の児童が増える傾向にある。

情報活用という観点から、各教科の調べ学習では、調べるのが容易なインターネットに頼る児童が多く、図書から情報を得る児童は少なくなっているのが現状である。必要な図書が不足していたり、図書が古く最新の情報を得られなかったりすることも多く、図書館が情報不足になっている現状がある。

小学校部会では、これらの課題を改善するために、児童の読書興味を引き出し、図書館の利用を促進する方法を取り上げ、次のような取り組みを行った。

② 読書に親しませるための実践・活動内容

〈読書指導〉

A 推薦図書カードによる取り組み

国語の教科書で紹介されている本を「推薦図書カード」にまとめ、児童に配布し、進んで読むことができるようにした。推薦図書は図書室に「学年おススメの本コーナー」を設け、すぐに手に取れるようにしている。



B 読み聞かせの実施

読み聞かせボランティアの方に、教室や放送での読み聞かせなどを行ってもらった。ボランティアさんに読んでもらうということは、児童にとって新鮮な経験であり、その本が児童にとって印象深く心に刻まれるものとなった。



縦割り班活動では、6年生が下級生に読み聞かせを行った。児童が児童という形での読み聞かせは、読み手が感動したことを聞き手に伝えようとすることで、共感を生み出すことにつながり、興味・関心を高めることができた。図書館の本を読んでもらったことを知ると、自分で手にとって本を読みたくなった児童は、早速図書室にその本を借りに行く様子が見られた。



C ブックトークの実施

児童の読書興味を高める試みとして、全校児童を対象に読書集会の時間を使ってブックトークを行った。紹介された図書に興味をもち、競ってその図書を借りる児童の姿が見られた。



D 読書タイム・すきま読書の実施と、図書バックの利用呼びかけ

朝読書の時間は、教師も児童も静かに本を開いて読む姿が見られる。読み聞かせの時間としても利用している。

また、授業中のちょっとした時間（テスト・プリントが終わった後など）に、すぐに本を出して読む習慣づけ「すきま読書」を推進している。机の中や脇に掛けてあるバッグの中から本をさっと取り出して読むことで、短時間でも時間を有効に使うことができるようにしている。

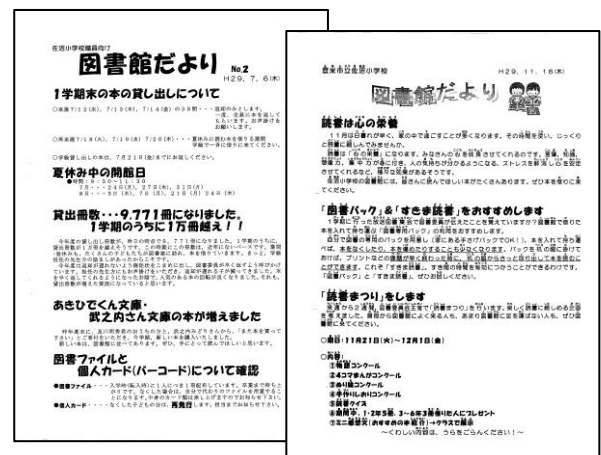
E 児童の選書による図書の購入

購入図書の選定は担当が各担任の希望を聞きながら行うだけではなく、児童にも選書させている。図書館に、購入して欲しい本をカードに書いて入れる「リクエストボックス」を設置した。本のカatalogから選んだり、シリーズ物の本の続きをリクエストしたりし、自分が選んだ本が届くと、大喜びで借りて読む姿がみられた。



F 学級担任・家庭との連携…図書便りの発行

図書便りは児童・保護者向けの図書便り、学級担任向けの図書便りを発行している。児童・保護者向けのお便りには、新刊案内やおすすめの本の紹介などを記事にした。先生方には、図書関係の事務的なお願いの他、図書室の貸出の状況や新刊案内などを載せ、図書室利用を呼びかけた。



G 図書委員の活動の工夫

図書委員の自主的な行動を促すために、図書委員の児童を4つのグループに分け、プロジェクトを立ち上げた。

環境プロジェクト

「環境プロジェクト」のメンバーは、図書室を魅力のある空間にするために、掲示物や展示、本の整理等の活動を行っている。

『おすすめの本コーナー』では、担当になった児童がその季節や予定されている行事にまつわる逸話や関連する図書などを選び、おすすめポイントとの表示と共に展示している。児童は読み手の感覚で選書するので、児童のニーズに合ったものが多く、児童にとって、「次はどんな本が紹介されるのだろう。」「この本を読んでみよう。」という読書意欲につながり、



楽しいコーナーとなっている。

返却プロジェクト

図書の返却が遅れる児童がいて困っているため、「返却プロジェクト」を立ち上げ、担当になった児童が返却を促すカードを各学級に届け、呼びかけを行っている。人気のある本の回転がよくなり、図書の貸出冊数が増える一助となっている。

広報プロジェクト

読書集会や読書行事の広報活動を中心に行うグループである。読書集会では、図書館の利用の仕方の他、ブックトークを行った。広報活動のあとには、図書室に足を運ぶ児童が増え、成果を上げている。

読書祭りプロジェクト

11月に行われる読書祭りに向け準備するグループである。読書祭りの計画、準備、運営等を中心となって行った。読書祭りには、たくさんの児童が図書館に足を運び、本を借りたりイベントを楽しんだりしていた。



読書祭りが11月21日から
始まるよ〜〜
期間 11月21日(水)〜12月1日(金)
★読書コンクールは自分で本を選び、読書
感想を書いてくれます。(前・後編 22〜23頁)
△読書マンガコンクールは、お絵描きと
読書マンガを併せて書くことができます。
④読書コンクールは、お絵描きと読書
感想を書いてくれます。(前・後編 22〜23頁)
⑤読書クイズは、学年別、学年別、学年別
があります。
⑥さらに、読書祭りに、本をまつりた
プレゼントもあります。(1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,37,38,39,40,41,42,43,44,45,46,47,48,49,50,51,52,53,54,55,56,57,58,59,60,61,62,63,64,65,66,67,68,69,70,71,72,73,74,75,76,77,78,79,80,81,82,83,84,85,86,87,88,89,90,91,92,93,94,95,96,97,98,99,100,101,102,103,104,105,106,107,108,109,110,111,112,113,114,115,116,117,118,119,120,121,122,123,124,125,126,127,128,129,130,131,132,133,134,135,136,137,138,139,140,141,142,143,144,145,146,147,148,149,150,151,152,153,154,155,156,157,158,159,160,161,162,163,164,165,166,167,168,169,170,171,172,173,174,175,176,177,178,179,180,181,182,183,184,185,186,187,188,189,190,191,192,193,194,195,196,197,198,199,200,201,202,203,204,205,206,207,208,209,210,211,212,213,214,215,216,217,218,219,220,221,222,223,224,225,226,227,228,229,230,231,232,233,234,235,236,237,238,239,240,241,242,243,244,245,246,247,248,249,250,251,252,253,254,255,256,257,258,259,260,261,262,263,264,265,266,267,268,269,270,271,272,273,274,275,276,277,278,279,280,281,282,283,284,285,286,287,288,289,290,291,292,293,294,295,296,297,298,299,300,301,302,303,304,305,306,307,308,309,310,311,312,313,314,315,316,317,318,319,320,321,322,323,324,325,326,327,328,329,330,331,332,333,334,335,336,337,338,339,340,341,342,343,344,345,346,347,348,349,350,351,352,353,354,355,356,357,358,359,360,361,362,363,364,365,366,367,368,369,370,371,372,373,374,375,376,377,378,379,380,381,382,383,384,385,386,387,388,389,390,391,392,393,394,395,396,397,398,399,400,401,402,403,404,405,406,407,408,409,410,411,412,413,414,415,416,417,418,419,420,421,422,423,424,425,426,427,428,429,430,431,432,433,434,435,436,437,438,439,440,441,442,443,444,445,446,447,448,449,450,451,452,453,454,455,456,457,458,459,460,461,462,463,464,465,466,467,468,469,470,471,472,473,474,475,476,477,478,479,480,481,482,483,484,485,486,487,488,489,490,491,492,493,494,495,496,497,498,499,500,501,502,503,504,505,506,507,508,509,510,511,512,513,514,515,516,517,518,519,520,521,522,523,524,525,526,527,528,529,530,531,532,533,534,535,536,537,538,539,540,541,542,543,544,545,546,547,548,549,550,551,552,553,554,555,556,557,558,559,560,561,562,563,564,565,566,567,568,569,570,571,572,573,574,575,576,577,578,579,580,581,582,583,584,585,586,587,588,589,590,591,592,593,594,595,596,597,598,599,600,601,602,603,604,605,606,607,608,609,610,611,612,613,614,615,616,617,618,619,620,621,622,623,624,625,626,627,628,629,630,631,632,633,634,635,636,637,638,639,640,641,642,643,644,645,646,647,648,649,650,651,652,653,654,655,656,657,658,659,660,661,662,663,664,665,666,667,668,669,670,671,672,673,674,675,676,677,678,679,680,681,682,683,684,685,686,687,688,689,690,691,692,693,694,695,696,697,698,699,700,701,702,703,704,705,706,707,708,709,710,711,712,713,714,715,716,717,718,719,720,721,722,723,724,725,726,727,728,729,730,731,732,733,734,735,736,737,738,739,740,741,742,743,744,745,746,747,748,749,750,751,752,753,754,755,756,757,758,759,760,761,762,763,764,765,766,767,768,769,770,771,772,773,774,775,776,777,778,779,780,781,782,783,784,785,786,787,788,789,790,791,792,793,794,795,796,797,798,799,800,801,802,803,804,805,806,807,808,809,810,811,812,813,814,815,816,817,818,819,820,821,822,823,824,825,826,827,828,829,830,831,832,833,834,835,836,837,838,839,840,841,842,843,844,845,846,847,848,849,850,851,852,853,854,855,856,857,858,859,860,861,862,863,864,865,866,867,868,869,870,871,872,873,874,875,876,877,878,879,880,881,882,883,884,885,886,887,888,889,890,891,892,893,894,895,896,897,898,899,900,901,902,903,904,905,906,907,908,909,910,911,912,913,914,915,916,917,918,919,920,921,922,923,924,925,926,927,928,929,930,931,932,933,934,935,936,937,938,939,940,941,942,943,944,945,946,947,948,949,950,951,952,953,954,955,956,957,958,959,960,961,962,963,964,965,966,967,968,969,970,971,972,973,974,975,976,977,978,979,980,981,982,983,984,985,986,987,988,989,990,991,992,993,994,995,996,997,998,999,1000)

前年度までは、担当教師の指示を受けての活動がほとんどだったが、プロジェクトを立ち上げてからは、指示が無くても自分たちで話し合い工夫しながら活動を行えるようになった。図書担当職員だけでは十分に回りきれない仕事を、図書委員の活躍で補ってもらっていると感じている。

〈情報活用〉

A 図書館利用オリエンテーションの実施

図書担当教員が1年生の教室に出向き、「学校図書館の利用の手引き」や「館内案内図」をもとに、図書の借り方や図書室のきまり、本の扱い方などを説明した。

また、図書集会では、図書委員会の児童が全校児童に対し「図書館の利用の仕方やきまり」について説明を行った。図書室の正しい利用の仕方を身に付けさせるために有効な方法である。



B 「学校図書館利用の手引き」作成

全校児童が学校図書館を円滑に利用できるように、「利用のてびき」を作成した。全校児童に配布し、学校図書館の利用指導に活用した。児童はこれをもとに、図書や資料を容易に探すことができるようになってきている。様々なジャンルの本を借りようという意欲付けにもなっており、読書の幅を広げるきっかけにもなっている。



C 市立図書館の団体利用貸し出しの活用

学校に所蔵されている本だけでは、児童が調べ学習を行う際に必要な、本の冊数が不足していたり、情報が古かったりする場合がある。市立図書館の団体貸し出しを利用し、必要な図書を貸し出してもらうことにより、児童の調べ学習をより深めることができた。

D 図書を活用した調べ学習の取り組み

インターネットを活用して調べ学習を行う児童が多いという現状を踏まえ、児童が図書を活用して、好きなテーマについて調べ活動をする、「調べ学習コンクール」を開催した。夏休みの自由研究の一環として、本で調べたことをもとに観察、実験等を行い、レポート用紙にまとめた。そして、児童が互いに作品を鑑賞し合い、投票をするという実践を行った。その結果、本から正しい知識を得ることができ、観察や実験の内容の理解も深めることにつながった。また、本を活用して調べようとする児童が徐々に増えてきた。



〈運営〉

A パソコンソフトによる蔵書のデーター化

図書室の本を少しずつ入力して、蔵書のデーター化を図ることによって、本が何冊あって、新しい本をどれくらい購入したかなどが分かりやすくなった。新しい本を購入する際も業者からデーターを送ってもらうことにより処理がしやすくなっている。

B バーコードによる本の貸し借り

データー化した本にバーコードを貼り付け、全校児童の氏名もバーコード化したことにより、本の貸し借りが短時間で出来るようになった。

パソコンソフトの便利な点は、各学年が何冊本を借りているのか、全校の中で誰が本を多く借りているかなど、貸出冊数や順位がすぐに分かることである。また、期限を過ぎても本を返していない児童を調べることができ、返却の催促状を出すこともできる。



C 図書ボランティアによる協力

学校図書ボランティアに次のようなことを協力してもらっている。

- ・壊れた本の修繕
- ・書誌登録、バーコードの作成・貼り付け
- ・各種シールの添付
- ・図書室の環境整備
- ・パネルシアターの作製

週に1度来てもらい2時間程度作業をお願いしている。直接口頭で作業をお願いできないときは、「連絡ノート」にやってほしい作業を書いてお願いしている。ボランティア側からは、作業内容や、足りない用具などを書き込んでもらってやり取りをしている。教員だけではなかなか時間が取れないのでとても助かっている。



D 用具の整理・整頓

図書館の作業に使用するものを使いやすく整理・整頓することによって作業がしやすくなっている。ボランティアにお願いする際にも分かりやすくなった。



③ 成果

- ・読書指導では、読み聞かせやブックトーク等、様々な取り組みを行ったことで児童に読書意欲をもたせることができ、図書館に来る児童も増加している。貸出冊数も前年度より増加している。
- ・学級担任にお便り等で働き掛けを行ったことで、学級でも意識して読書を取り入れるようになり、学校全体で読書活動を推進することができた。
- ・保護者へのお便りも発行したことで、家庭にも読書の啓発を行うことができた。

- ・本の紹介や、利用の手引きを配布したことで、様々なジャンルの本を手にする児童が増え、読書の幅も広がってきている。
- ・図書委員の活動を工夫したことで、自主的な活動を促すことができ、学校全体の貸出冊数の増加にもつながった。
- ・調べ学習コンクールなどを行ったことで、図書室の本から積極的に情報を得ようとする児童が増え、情報収集能力の育成につなげることができた。
- ・学校図書館の本の不足分を補うために市立図書館の団体貸し出しを利用したことにより、児童の調べ学習をより深めることができた。
- ・図書館の蔵書情報や貸出システムを、パソコンソフトによるデータ化したことで、本の貸し出しや冊数の確認、返却の催促など、容易に行えるようになった。
- ・読み聞かせや図書館運営の手伝いとして、図書ボランティアさんに入ってもらったことは、子供たちに喜んでもらえた上に、図書館運営の仕事に時間が取れない担当職員への大きな助けとなり、とても有効であった。

④ 課題（今後に向けて）

- ・本を読み内容を想像したり理解したりする力は、やはり小さい頃の読み聞かせが大きく影響しているものと思われる。不読傾向の子が本に親しまないのは、小さい頃からの読み聞かせが不足していたためではないかと思われる。小学校では、たくさんの本を読んで聞かせること、さらに本に親しませる機会を与えることが大切である。
- ・図書の貸出冊数は増えたものの、不読傾向の児童はまだ多い。不読傾向の児童が本に手を伸ばすような働き掛けを今後も行っていく必要がある。
- ・軽読書で止まっている児童も多いということも課題の一つである。文字数の多い本に挑戦できるように、オリエンテーションやガイダンスなどを行い、「読んでみたい」という意欲をもたせていきたい。
- ・家庭でも家族が本を読む姿を見せるなど、本を読む環境を整え、家族ぐるみの読書を推進していくことも必要である。
- ・図書室の本は20年で廃棄するのが理想とされている。実際に図書室の本は、日に焼けていたり、中身の情報が古かったりと、子供が手を伸ばすとは考えにくい本が並んでいるのが現状である。新しい本がたくさん並び、子供たちが足を運びたくなる図書館を作り上げていきたい。

（3）中学校部会

① 読書活動における生徒の実態、図書館の現状・課題

中学生になると学習、部活動に費やす時間が増え、読書の時間を確保することが難しくなってくる。また、各教科の調べ学習においても、手早く多くの情報を得られるインターネットを活用する機会が増え、図書室を利用して取り組む時間が減っていることも、読書離れや図書室利用の減少が進む要因であると考えられる。

中には1ヶ月に1冊も本を読まないという生徒が半数以上いる学級もある。市内の中学校では、朝読書の時間を設け読書の習慣を身に付けさせる取り組みを行っているが、学年が上がるにつれて個々の好みがはっきりし、自分で購入した本を読んでいる生徒が増えてきている。好んで読む本はドラマや映画の原作など、そのときに話題になっているものが多く、軽読書の段階で止まっている生徒も多く見られる。また、本を読む機会が減っていることにより理解力や、言語力、想像力の低下が考えられ、生徒個々の能力にも開きが出ていると言える。

中学校部会では、これらの課題と向き合い、生徒が少しでも本に興味を持つための具体的な方法について考え、図書室の利用を促進するために、次のような取り組みを行った。

② 読書に親しませるための実践・活動内容

～生徒の読書への興味を引き出す活動～

A 図書室だよりの発行

図書委員会の活動として、定期的に図書館便りを発行した。

図書室の本をより多くの生徒に知ってもらうために、新刊図書や図書委員お勧めの本など、本の紹介、貸し出しの多い学級のランキングなどを掲載した。特に生徒が選んだ本を紹介することで、より関心をもってもらうことができた。

また、新刊図書が入荷したときに知らせることにより、図書室から足が遠のいた生徒も、また新刊を借りにやってくる姿が見られた。



B 本の紹介の工夫

あなたを癒やす処方本

読 書 薬

さ ま

投薬日 年 月 日

+

対象

☐ 心の悩み

☐ 身体の悩み

☐ 恋の悩み

☐ 勉強の悩み

☐ 友達関係の悩み

☐ 家族関係の悩み

☐ 元気がでない悩み

☐ その他()

※用法を守って服用ください。
効能には個人差があります。

中田中学校図書委員会

図書委員会の活動として「お薬本コーナー」を設置した。「心の悩み」「体の悩み」「恋の悩み」「勉強の悩み」などの項目が書かれた処方箋袋を作成し、その袋の中には図書委員が選んだ本を入れ、外から中が見えない状態にした。中に入れる本は、あまり生徒が手に取らない本をいれることとし、今までに借りたことのない本が目にとまるきっかけとなるよう工夫した。



C 生徒集会を利用したの宣伝活動

生徒集会の時間を利用して図書委員会から図書室の利用の仕方や本の紹介を行い、全校生徒への呼び掛けを行った。生徒同士の呼び掛けにより、昼休みに図書室に足を運ぶ姿が見られた。今後は、年間の多読賞の発表を行い、さらに関心が高まるように取り組んでいきたい。



D 図書の選書の工夫

教師の選書希望と合わせて、生徒の要望も取り入れて選書を行っている。リクエストカードを全校に配付し、「生徒が読みたい本」、「みんなに読んでほしい本」を調査し、それを参考にしながら、中学生向けの本だけでなく、生徒の興味をひく本や小学校高学年向けの本など、手に取りやすい本も置くようにした。その結果、「図書室を利用したいと思うようになった」、「図書室の本が前より手に取りやすくなった」と答える生徒が増えた。

また、軽読書にとどまっている生徒が多いことから、教師が読ませたい本を集団読書用に購入し、各学級で読ませることとした。

E 図書室の整備

本の帯を利用した掲示物の工夫や、各種コーナーを見やすく整備するように努めた。

- ・新刊図書や図書委員おすすめコーナー
- ・本が苦手な人へのショートストーリーコーナー
- ・部活・スポーツコーナー

などを設置することで、短時間の図書室利用でも、生徒が本に興味を持つきっかけを作ることができるようにした。



F 学級文庫の設置

集団読書用の本を利用して、みんなが同じ本を読む機会をつくったり、朝読書の時間に読んでほしい本を薦めたりした。休み時間に、自分から進んで本を読む姿も見られるようになってきている。

G パソコンソフトによる蔵書のデーター化

図書室の蔵書をデーター化することにより、本の冊数や、新刊図書の購入状況などが把握しやすくなった。新しい本を購入する際も業者からデーターを送ってもらうことにより処理しやすくなっている。

H バーコードによる本の貸し借り

データー化した本にバーコードを貼り付け、生徒の氏名もバーコード化したことにより、本の貸し借りが短時間で、スムーズに行えるようになった。また、パソコンソフトの便利な点として、貸出冊数や生徒個々の読書状況がすぐに分かり、貸出期間もすぐに確認できるので、返却の催促も手早く出すことができる。

I 図書ボランティアによる協力

司書経験のある方を中心に学校図書ボランティアの協力をいただいている。主に、書誌登録、バーコードの作成・貼り付けなどの本の管理や、図書室内の環境整備、本の貸出業務をお願いしている。教員だけでは時間が取れないところを補っていただき非常に助かっている。

③ 成果

- ・読書に親しませるための実践・活動を通して、少しずつではあるが、生徒にとって読書活動が身近に感じるようになってきた様子がうかがえる。
- ・本の紹介や宣伝活動、また様々な本が目に残る仕掛けや工夫をしたことで、これまでに読んだことのない本に対する興味が湧いたと答える生徒がいた。また、空いた時間や休み時間を利用して、自ら読書をする生徒の姿も目にするようになってきた。
- ・図書委員の活動を工夫したことで、生徒の自主的な活動を促すことができ、図書室を利用する生徒が増えてきている。
- ・図書室の蔵書や貸出システムをパソコンソフトによるデーター化したことで、本の貸出業務や冊数の確認など、スムーズに行えるようになった。

④ 課題（今後に向けて）

- ・生徒の読書離れという現状や課題を受け、いかに本に興味を持たせられるかということを考え、活動に取り組んできた。そのことで、生徒が図書室や本に少しでも興味をもつきっかけをつくることができたのではないかと感じる。
- ・生徒の読書活動がより充実したものになるためには、今後も継続した取り組みや、これからの生徒に実態に応じた活動の工夫がさらに必要ではないかと考える。
- ・今後の活動に向けて、子供たちが本を身近に感じられる工夫を今後も実践しながら、読書好きの生徒を育成するための方法を日々模索していくことも私たち教師の課題ではないかと考える。

(4) 市立図書館部会

① 読書活動における児童の実態、図書館の現状・課題

登米市内には図書館法に基づく迫図書館と登米図書館の2館の市立図書館の他、中田生涯学習センター内に設置されている中田図書室を合わせて3図書館(室)がある(以下便宜上3館と表記する)。

3館の規模と利用状況は次のとおりとなっている。

市立図書館の蔵書数、貸出冊数、利用者数

(平成29年3月31日現在)

項 目	迫図書館	登米図書館	中田図書室	計
蔵書数(冊)	46,155冊	31,742冊	25,955冊	103,852冊
貸出冊数(冊)	50,474冊	8,587冊	10,422冊	69,483冊
利用者数(人)	21,725人	9,140人	10,846人	41,711人

人口1人当たり蔵書数、貸出数

項 目	登米市計	人口1人当たり		
		登米市	宮城県	全国
蔵書数	103,852冊	1.27冊	2.26冊	3.06冊
貸出数	69,483冊	0.85冊	3.41冊	5.39冊

※出展「平成28年度宮城県公共図書館・公民館図書室等現況調査
(平成27年度実績)」ただし、登米市は平成28年度実績

蔵書数の103,852冊という数字は、人口1人当たりにすると1.27冊となるが、宮城県平均の2.26冊、全国平均の3.06冊と比べると著しく蔵書数が少ない。

貸出冊数においても、人口1人当たりにすると登米市では0.85冊であり、県平均3.41冊、全国平均の5.39冊に比較して極めて少ない冊数となっている。

貸出冊数が少ない要因としては、大きく3つのことが考えられる。

1つ目には蔵書数の少なさである。3館合わせても103,852冊しかなく、日本図書館協会が1989年に公表した公立図書館の設置と運営に関する数値基準では、登米市の人口規模で37万冊以上の蔵書が望ましいとしている。2つ目としては、迫図書館、登米図書館ともに閲覧スペースが十分でない点が挙げられる。3つ目には、図書館が設置されていない町域の利用者が少ないことも要因と考えられる。

② 読書に親しませるための実践・活動内容

〈図書館内での活動〉

A 貸出について

利用者登録をした人には、登米市立図書館利用者カードを交付し貸し出しをしている。

利用者カードのデザインには登米市出身の漫画家石ノ森章太郎氏の作品である仮面ライダーを用い、親しみやすいものとしている。また利用者カードには、現在借りている本のタイトルや返却期限が印字されるようになっている。



1枚の利用者カードで3館それぞれに5冊まで貸し出しすることができる。貸出期間は15日間。また登米市内の学校や読み聞かせサークルなどの団体でも登録することができ、1団体で30冊、30日間の貸し出しをしている。

保育所・幼稚園では大型絵本や紙芝居の利用が多く、小中学校では調べ学習等の授業や朝読書用に利用されている。

蔵書のうち、児童用の3館合計の資料数は次の通りである。

- ・絵本：15,628冊
- ・紙芝居：1,257冊
- ・児童書：19,718冊

B 住民生活に光をそそぐ交付金

平成23年度に国の地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）を活用し、図書館や公民館の絵本や児童書の充実を図った。

市立図書館へは下記の冊数を配架し、子供たちの利用促進を図っている。

- ・迫図書館：3,252冊
- ・登米図書館：800冊
- ・中田図書室：855冊

C 学サポセット

宮城県図書館が、県内の図書館や公民館図書室へのサポート及び子どもの読書環境推進支援を目的とし、県内の小中学校へ貸し出している資料。正式には「学校図書館を支援する図書館・公民館図書室をサポートするセット」。市立図書館を窓口として、宮城県図書館の資料を小中学校に貸し出ししている。

D 図書館ボランティアによるおはなし会の開催

迫図書館では、「図書館ボランティア だっこ・ラッコ」による、小学校低学年向けの子どもを対象とした「おはなし会」と、乳幼児を対象とした「赤ちゃんおはなし会」を定期的に行っている。

紙芝居や絵本や読み聞かせ、乳幼児向けの手遊びなど、絵本を通じた親子のふれあいの場にもなっている。



E 読んだらスタンプ

迫図書館と登米図書館で実施している。

小学生を対象に、借りた冊数に応じてスタンプカードにスタンプを押す。100冊ごとに記念品を贈呈し、読書意欲の高揚を図っている。

F 図書館見学・職場体験の受入れ

希望する市内の小中学校児童生徒の図書館見学を受け入れ、図書館の利用方法を学んだり、図書館に対する理解を深めたりしてもらっている。

また、中学生の職場体験も受け入れており、働くことへの関心をもってもらおうよう努めている。



表〇 平成29年度施設見学・職場体験実績

実施日	会場	実施団体
5.16	登米図書館	石越中学校2年生（7名）職場体験
5.17～19	迫図書館	佐沼中学校2年生（2名）職場体験
5.25	登米図書館	登米小学校2年生（25名）施設見学
6.27～29	迫図書館	新田中学校2年生（2名）職場体験
7.26	迫図書館	登米市社会福祉協議会ボランティア体験 佐沼中学校2年生（2名）・佐沼高等学校3年生（1名）
10.26	迫図書館	北方小学校2年生（27名）施設見学
11.8～9	登米図書館	古川黎明中学校2年生（1名）職場体験

G おすすめ本の紹介活動

今年度、迫図書館、登米図書館では施設見学や職場体験の際に、児童・生徒によるおすすめ本の紹介活動（紹介票の作成など）を実施した。

作成した紹介票は、一定期間、図書館内に掲示し、利用者の読書本選書の参考にしてもらった。



H 『わくわく読書福袋』の貸出

登米図書館では、1月のイベントとして利用者が未読のジャンルに接する機会を提供している。新しい本に触れることで読書への関心を促し今後の読書活動への導入を図る。福袋は、図書館職員がテーマに沿った内容の本を複数冊選び中身が分からないように袋詰めし、中身は“開けてみてからの楽しみ”。

普段自分では手に取らない本と出会える「福」が期待できる。

〈図書館以外での活動〉

A 登米市絵本原画展

絵本原画や本と触れ合うことにより、子供の心を育む読書活動の推進のために実施している。

原画の展示のほかに、良い絵本の展示や、ボランティアによる読み聞かせなども行っている。

平成 29 年度は、9 月 7 日から 10 日までの 4 日間、登米祝祭劇場小ホールで実施した。展示した原画は、モリナガ・ヨウ作・絵の「築地市場」と、鈴木まもる作「だっこ」。4 日間で 1,089 人（うち児童 708 人）が入場した。



B ブックスタート事業

子育て支援事業及び図書館事業の一環として、乳児とその保護者に絵本を贈ることにより、絵本を介して親子のコミュニケーションづくりと望ましい親子関係が育まれる環境づくりを目的として実施している。

乳児（4～5ヶ月児）健診のときに、ボランティアの協力をもらい、メッセージを込めながら、絵本 2 冊が入ったブックスタートパックを親子一人ひとりに個別に配布している。

C ブックスタートプラス

登米図書館では、ブックスタート事業後のフォローとして、図書館に おすすめ本の展示やリストの作成、月齢に適した絵本の相談に応じている。

D キャリアセミナー

中学生が様々な職業の方との意見交換（職業や生き方に関する話等を聞くこと）により、生徒自らが進路選択の意欲を育むことを目的に実施しているキャリアセミナーに、司書を派遣している。その際には、図書館や本の魅力も紹介している。



平成 29 年度キャリアセミナー派遣実績

実施日	実施校
11. 7	中田中学校 1 年生（17 名）
11. 10	東和中学校 1 ～ 3 年生（21 名）
11. 16	石越中学校 1， 2 年生（24 名）

③ 成果

- ・ 迫図書館で開催しているおはなし会は、4月から12月まで12回開催したが、毎回多くの親子連れの参加があり喜ばれている。
- ・ 読んだらスタンプでは、100冊以上の読書量を達成した子供たちも多数あり、子供たちの読書意欲の向上に貢献している。
- ・ 職場体験生徒によるおすすめ本の紹介では、紹介された本に興味を持つ人も多く、当該図書の貸し出しにつながった。
- ・ わくわく読書福袋では、広報活動も積極的に行ったことよりの利用数の増加が見られた。利用者からは「あまり手にしない本が入っていて、読んでみたら意外に面白かった」と評判も良く、新たな読書ジャンルへの挑戦に役立ったと考えている。
- ・ 絵本原画展には毎回1000人以上が入場し、原画を楽しむと同時に、良い絵本の展示では、多くの子供たちが思い思いの本に手に取り楽しんでいた。
- ・ ブックスタート事業をきっかけに、図書館に訪れるようになったり、おはなし会へ参加するようになったりする親子も多く、親子のコミュニケーション作り以上の役割を果たしている。

④ 課題（今後に向けて）

- ・ 図書館3館の平成29年4月から12月までの15歳以下の子供たちへの貸出状況は3,979人に15,195冊の貸し出しで、前年同期より252人、340冊の減となった。同期間の団体貸し出し利用でも、のべ580団体1,113冊と前年より159団体143冊の減となった。利用増に向けた取り組みを考えていかなければならない。
- ・ おはなし会は迫図書館でしか行っておらず、登米図書館、中田図書室での開催も検討しなければならない。
- ・ 図書館ボランティアは、迫図書館の1団体しかなく、図書館事業を拡大するためにも、新たなボランティア育成に力を入れていかなければならない。
- ・ ブックスタート事業においては、登米図書館には協力してくれるボランティアがいないため、図書館職員が対応するので、事業実施中は図書館業務が手薄になってしまう。
- ・ 充実した図書館サービスを提供するために、登米市らしい登米市の人口規模に見合った新しい図書館の整備が待たれる。

2) 子供たちへの推薦本の選定

「登米っ子おすすめの本 100冊」

読書活動部員がおすすめの本を持ち寄り、登米市の子供たちにぜひ読んでほしい本を100冊選んだ。選定の基準として、本の楽しさを味わうことができる本、子供たちの心の成長に働き掛けることができる本、長きにわたり読み継がれる名作など、優良な本を集めた。幼稚園、小学校、中学校、市立図書館からそれぞれ25冊ずつ選び、表にまとめた。

登米っ子おすすめの本「幼稚園」25冊

	書 名	著 者 名	出 版 社
1	きんぎょが にげた	五味 太郎／作	福音館書店
2	おもひさんがね・・・	とよた かずひこ／さく・え	童心社
3	うんこ！	サトシン／文 西村 敏雄／絵	文溪堂
4	そら はだかんぼ！	五味 太郎／作	偕成社
5	おしっこしょうぼうたい	こみ まさやす／作・絵	ひかりのくに
6	おつきみうさぎ	中川 ひろたか／文 村上 康成／絵	童心社
7	おかあさんだいすきだよ	みやにし たつや／作・絵	金の星社
8	ぐりとぐら	なががわ りえこ／さく おおむら ゆりこ／え	福音館書店
9	おひさまとかくれんぼ	たちもと みちこ／さく・え	教育画劇
10	うみの100かいだてのいえ	いわい としお／作	偕成社
11	かみさまからの おくりもの	ひぐち みちこ／著	こぐま社
12	おいしいのぼうけん	ふるた たるひ／さく たばた せいいち／画	童心社
13	もったいないばあさん	真珠 まりこ／作・絵	講談社
14	おとうさんはウルトラマン	みやにし たつや／作・絵	学研
15	モチモチの木	斎藤 隆介／作 滝平 二郎／絵	岩崎書店
16	おもちのきもち	かがくい ひろし／作・絵	講談社
17	ふしぎなナイフ	中村 牧江・林 健造／さく 福田 隆義／え	福音館書店

18	しろくまちゃんのほっけーき	森 比左志／文 わだ よしおみ／文 わかやま けん／絵	こぐま社
19	すいかのたね	さとう わきこ／さく・え	福音館書店
20	いのちのまつり	草場 一壽／作 平安座 資尚／絵	サンマーク出版
21	しゅくだい	宗正 美子／原案 いもと ようこ／文・絵	岩崎書店
22	ちょっとだけ	瀧村 有子／さく 鈴木 永子／え	福音館書店
23	おおきくなるっていうことは	中川 ひろたか／文 村上 康成／絵	童心社
24	こんとあき	林 明子／さく	福音館書店
25	はじめてのおつかい	筒井 頼子／さく 林 明子／え	福音館書店

登米っ子おすすめの本「小学校」25冊

	書 名	著 者 名	出 版 社
26	めっきらもっきらどおんどん	長谷川 摂子／作 ふりや なな／画	福音館書店
27	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バージニア・リー・バートン／ぶん・え むらおか はなこ／やく	福音館書店
28	ひとまねこざる	H・A レイ／作・訳	岩波書店
29	カラスのパンやさん	かこ さとし／作・絵	偕成社
30	かぐやひめ	宗正 美子／原案 いもと ようこ／文・絵	岩崎書店
31	おまえうまそうだな	宮西 達也／作・絵	ポプラ社
32	天の火をぬすんだウサギ	ジョアンナ・トゥロートン／さく 山口 文生／やく	評論社
33	そらいろのたね	なかがわ りえこ／文 おおむら ゆりこ／絵	福音館書店
34	チョコレート戦争	大石 真／作	理論社
35	エルマーのぼうけんシリーズ	ルース・スタイルス・ガネット／作 渡邊 茂男／訳	福音館書店

36	きみがおしえてくれた。	今西 乃子／文 加納 果林／絵	新日本出版社
37	かたあしだちょうのエルフ	おのき がく／ぶん・え	ポプラ社
38	地球のこどもたちへ	シム・シメール／絵と文 小梨 直／訳	小学館
39	ワンダー	R・J パラシオ／作 中井 はるの／訳	ほるぷ出版
40	だれも知らない小さな国	佐藤 さとる／作	講談社
41	びりっかすの神さま	岡田 淳／作	偕成社
42	ファール昆虫記 あり	ファール／原作 小林 清之介／文 金尾 恵子／絵	ひさかたチャイルド
43	いのちをいただく	坂本 義喜／原案 内田 美智子／作 魚戸おさむとゆかいななか またち／絵	講談社
44	ともだちをたすけたゾウたち	わしお としこ／文 遠山 繁年／絵	教育画劇
45	いのちのおはなし	日野原 重明／文 村上 康成／絵	講談社
46	14の心をきいて	つちだ よしはる／作・絵	PHP研究所
47	はなちゃんのみそ汁	安武 信吾・千恵・はな／原作 魚戸 おさむ／文・絵	講談社
48	冒険者たち	斎藤 惇夫／作 藪内 正幸／画	岩波書店
49	魔女の宅急便	角野 栄子／作 林 明子／画	福音館書店
50	マララ 教育のために立ち上がり、 世界を変えた少女	マララ・ユスフザイ、パトリ シア・マコーミック／著	岩崎書店

登米っ子おすすめの本「中学校」25冊

	書 名	著 者 名	出 版 社
51	もものかんづめ	さくら ももこ／著	集英社

5 2	ガラスのうさぎ	高木 敏子／作 武部 本一郎／画	金の星社
5 3	カラフル	森 絵都／作	理論社
5 4	ぼくらの七日間戦争	宗田 理／作	ポプラ社
5 5	きまぐれロボット	星 新一／作	KADOKAWA
5 6	バッテリー	あさの あつこ／作 佐藤 真紀子／絵	教育画劇
5 7	夏の庭 －The Friends－	湯本 香樹実／作	徳間書店
5 8	1 リットルの涙	木藤 亜也／著	幻冬舎
5 9	十五少年漂流記	ジュール・ヴェルヌ／著 波多野 完治／訳	新潮社
6 0	西の魔女が死んだ	梨木 果歩／作	小学館
6 1	きみの友だち	重松 清／著	新潮社
6 2	赤毛のアン	モンゴメリ／作 村岡 花子／訳	新潮社
6 3	13 歳のハローワーク	村上 龍／著 はまの ゆか／絵	幻冬舎
6 4	精霊の守り人	上橋 菜穂子／作 二木 真希子／絵	偕成社
6 5	博士の愛した数式	小川 洋子／著	新潮社
6 6	風が強く吹いている	三浦 しをん／著	新潮社
6 7	父の詫び状	向田 邦子／著	文藝春秋
6 8	そして誰もいなくなった	アガサ・クリスティー／著 青木 久恵／訳	早川書房
6 9	星の王子さま	サン＝テグジュペリ／著 河野 万里子／訳	新潮社
7 0	アンネの日記	アンネ・フランク／著 深町 真理子／訳	文藝春秋
7 1	心を整える。	長谷部 誠／著	幻冬舎
7 2	坊っちゃん	夏目 漱石／著	新潮社
7 3	蜘蛛の糸・杜子春	芥川 龍之介／著	新潮社
7 4	ゾウの時間・ネズミの時間	本川 達雄／著	中央公論新社
7 5	龍馬がゆく	司馬 遼太郎／著	文藝春秋

登米っ子おすすめの本「図書館」25 冊

	書 名	著 者 名	出 版 社
7 6	どんどこももんちゃん	とよた かずひこ／さく・え	童心社
7 7	だるまちゃんとてんぐちゃん	加古 里子／さく・え	福音館書店
7 8	うさぎのくれたバレエシューズ	安房 直子／文 南塚 直子／絵	小峰書店
7 9	スーホの白い馬	大塚 勇三／再話 赤羽 末吉／画	福音館書店
8 0	雑草のくらし	甲斐 信枝／さく	福音館書店
8 1	生命の樹：チャールズ・ダーウィンの生涯	ピーター・シス／文・絵 原田 勝／訳	徳間書店
8 2	NASA より宇宙に近い町工場	植松 努／著	ディスカヴァー・トゥエンティワン
8 3	夜のピクニック	恩田 陸／著	新潮社
8 4	おしゃべりなたまごやき	寺村 輝夫／作 長 新太／画	福音館書店
8 5	1 4 ひきのあさごはん	いわむら かずお／作	童心社
8 6	つきよ	長 新太／さく	教育画劇
8 7	ごんぎつね	新美 南吉／作 黒井 健 絵	偕成社
8 8	絵で読む広島原爆	那須 正幹／文 西村 繁男／絵	福音館書店
8 9	だいくとおにろく	松居 直／再話 赤羽 末吉／画	福音館書店
9 0	ベルナの目はななえさんの目	郡司 ななえ・織茂 恭子／さく	童心社
9 1	画本 宮沢賢治 雨ニモマケズ	宮沢 賢治／作 小林 敏也／画	パロル舎
9 2	うまれてきてくれてありがとう	にしもと よう／ぶん 黒井 健／え	童心社
9 3	ラヴ・ユー・フォーエバー	ロバート・マンチ／作 乃木 りか／訳 梅田 俊作／絵	岩崎書店

94	しろいうさぎとくろいうさぎ	ガス・ウィリアムズぶん、え まつおか きょうこ／やく	福音館書店
95	ふるやのもり	瀬田 貞二／再話 田島 征三／絵	福音館書店
96	ごめんねともだち	内田 麟太郎／作 降矢 なな／絵	偕成社
97	アイちゃんのいる教室	高倉 正樹／ぶん・しゃしん	偕成社
98	しっぱいにかんぱい！	宮川 ひろ／作 小泉 るみ子／絵	童心社
99	走れ!T校バスケット部	松崎 洋／著	彩雲出版
100	永遠の0	百田 尚樹／著	太田出版

7 研究のまとめ

1) 成果と課題

〈成果〉

- (1) 読書活動に関する基礎的理論について部員全員で確認したことで、読書能力の発達段階や読書環境の整備、読書への働き掛けの方法を共通理解し、歩調を合わせながら実践に取り組むことができた。
- (2) 各学校種・施設が、図書館の現状や読書活動の課題を洗い出し、その解決に向けた取り組みを行ったことで、子供たちに読書の楽しさに気付かせ、本に触れる機会を多くもたせることができた。
- (3) 各学校種・施設がお互いの取り組みを知り、情報交換しながら連携を図ることで、子供たちの読書を取り巻く環境をより良いものにすることができた。
- (4) 「登米っ子おすすめの本100冊」は、子供たちにぜひ読ませたい優良な本を選定することができた。

〈課題〉

- (1) 幼稚園、小学校、中学校の連携や接続の在り方を更に探っていききたい。家族ぐるみの読書、読み聞かせやブックトーク、委員会活動の工夫等、幼・小・中が連携して取り組める方法を探っていくことが、ねらいに迫るために有効である。
- (2) 各学校種と市立図書館の連携の仕方を模索していききたい。各学校に市立図書館の団体利用・流通システムの利用を働きかけたり、学校に出向いての広報活動を行ったりしながら、更なる市立図書館の利用数の増加にもつなげていきたい。
- (3) 不読傾向や軽読書で止まっている子供はまだ多く見られる。本に手を伸ばすための働きかけ、文字数の多い本にレベルアップできるような方法を更

に取り入れ、読書意欲をもたせていきたい。

- (4) 登米っ子おすすめの本100冊の選定を行ったが、リーフレット等にまとめられればさらに理想的である。「本の表紙の写真」や「おすすめポイント」を載せ、子供たちが読んでみたくなるような形にまとめたい。

2) 研究の取り組みから～本好きな子供を育てるために～

子供たちが本に興味をもち、読書の楽しさに気づき、習慣化を図ことができるように、今年度、読書活動において様々な取り組みを行ってきた。

本好きな子供を育てるために、どのような働き掛けをすることが有効だったのか、読書活動部員の声をまとめた。

本をよく読む子供は語彙が豊富であり、想像力が豊かであると感じる。そのような子供を増やすために、発達段階に合わせ、次のような働き掛けをすることが有効であると考えられる。

幼児期は、子供が本に出会う大切な時期であり、大人が良い本に出会うきっかけ作りをしてあげることが必要である。そのために、読み聞かせは最も有効な方法である。幼稚園では、読み聞かせの時間を多く設定しながら本の楽しさを伝えられるようにし、家庭に対しても読み聞かせを推奨するだけではなく実際に子供に読んで欲しい本（昔話など）を紹介することが有効である。親が子供に読み聞かせをすることは、言葉を覚えるだけではなく、精神面の安定を図ることができ、心の成長にも大きく役立つものである。読み聞かせをする家庭は少なくなっているため、今後もさらに本に触れる機会をもつよう働きかけ、家族ぐるみの読書を推奨していくことが大切である。

小学生になっても、読み聞かせは引き続き行いたい。小さい頃の読み聞かせは、語彙を増やし、想像力を養うことができる。低学年だけではなく、中・高学年においても読み聞かせは有効である。小学生段階では、絵本から活字への転換期として、文字を自分で読んであらすじを捉えることができるようになる時期であり、活字から想像を膨らませることができるようになる時期でもある。中学年・高学年になると読書離れが始まり、個人によって読書量に差が出てくる。いかに読書の楽しさを伝えるかという手立てが必要である。さらに小学生段階では、様々なジャンルの本を紹介し、読書の幅を広げられるようにしたい。調べ学習では、本を活用し、情報を得る力を養うことも小学生段階で必要となる。そのための環境整備をしていくことが大切である。委員会活動なども活用し、児童が自発的に読書活動を推進していくことも有効な手段である。

中学生になると学習や部活動で忙しくなる分、図書室に本を借りに来る生徒は減ってしまう。その学年によって本をよく借りに来る学年、ほとんど借りに来ない学年と差が出てくる。それは小学生段階での習慣化が影響していることも考えられる。中学生に対し、本を手取るためのきっかけ作りをするのであれば、やはり国語の授業で働きかけることが最も有効な手段である。生徒によって読める本のレベルや好みには違いがある。生徒のレベルや好み、その生徒にふさわしい本を紹介し、読書興味を導き出すことが必要である。忙しい中学生という時期でも読書習慣を離さ

ないようにすること，生徒の特性や興味・関心を探り，魅力ある本を図書室に配架し，紹介していくことが大切である。

市立図書館では，社会教育の観点から，市民の読書環境を充実させていく役目がある。今年度は，おはなし会やブックスタート事業，読んだらスタンプ等の取り組みを行ったことで来館者が増え，貸出冊数も増やすことができた。乳児期のブックスタートから始まり，幼稚園・小学校・中学校・高校の図書館のサポート役として機能し，社会人になってからも生涯にわたって読書に親しめる環境を，市立図書館で担っていけるようにしたい。

今回の研究での大きな成果は，各学校種・施設のネットワークができたことである。お互いの取り組みを知り，連携を図ることができたことで，子供たちの読書を取り巻く環境をより良いものにすることができた。

課題として挙げられることは，更なる幼・小・中・市立図書館のつながりという点である。家族ぐるみの読書，読み聞かせやブックトーク，オリエンテーション，委員会活動の工夫等，幼・小・中・市立図書館が連携して取り組める方法を探っていくことが，ねらいに迫るために有効である。

読書は「心の栄養」と言われる。言葉・知識・想像力・集中力などが身に付き，人の気持ちが分かるようになる，ストレスを解消し心を安定させてくれるなど，様々な効果があると言われる。IT 社会となった現在，読書は時代に抵抗する行為ではある。しかし，子供たちの心の成長を助け，人間として生きていくための必要な力を身に付けることができる読書という行為は，いつの時代になっても不可欠なものである。本の楽しさを伝えていくことが私達の使命である。

《参考文献・資料》

○『学校図書館新今すぐ使えるガイドブック』

宮城県連合小・中学校教育研究会学校図書館部会編

編集協力 公益法人 全国学校図書館協議会

○『読書と豊かな人間性』著者：増田伸一・朝比奈大作・米谷茂則 放送大学

○「新教育システム開発プログラム研究会」資料：全国学校図書館協議会

○「学習指導と学校図書館」資料：静岡大学教授 村山 功氏の講義より

○「素晴らしき朝の読書」朝の読書宮城交流会資料：朝の読書推進協議会理事長 大塚笑子